

# 2018年度 第1四半期 決算概要

## I. 2018年度 第1四半期 連結業績概要

## II. 補足資料

シャープ株式会社

2018年7月31日

### 【見通しに関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、シャープ株式会社及び連結子会社（以下、総称して「シャープ」という）の計画、戦略、業績など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は過去または現在の事実ではなく、現時点で入手可能な情報から得られたシャープの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、シャープの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、シャープが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えうるリスク、不確実性及びその他の要因としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) シャープの事業領域を取り巻く経済情勢
- (2) シャープの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化
- (3) 為替相場の変動(特に、米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替相場)
- (4) 諸外国における貿易規制等の各種規制
- (5) 他社との提携、アライアンスの推進状況
- (6) シャープに対する訴訟その他法的手続き
- (7) 製品やサービスについての急速な技術革新 など

※本資料の記載金額は、億円未満切り捨て表示としています。

※前年増減額等は、表示された億円単位の金額を元に算出しております。

# I . 2018年度 第1四半期 連結業績概要

**SHARP**

1

- ・ 本日はご多忙な中、お集まり頂きありがとうございます。  
また日頃は、当社の広報(IR)活動にご協力頂き、まことにありがとうございます。
- ・ それでは、お手許にお配りしておりますパワーポイント資料に沿って、説明いたします。

## 2018年度 第1四半期 連結業績概要(1)

---

- 第1四半期の業績は、中期経営計画達成に向け、引き続き順調に推移
- 売上高は、2016年度の第4四半期以降、6四半期連続で前年同期を上回る
- 利益は、各利益とも大幅に伸長、営業利益は前年同期の1.5倍に迫る大幅な増益
- 自己資本比率は、2011年度末以来、6年3ヶ月ぶりに20%を上回る

**SHARP**

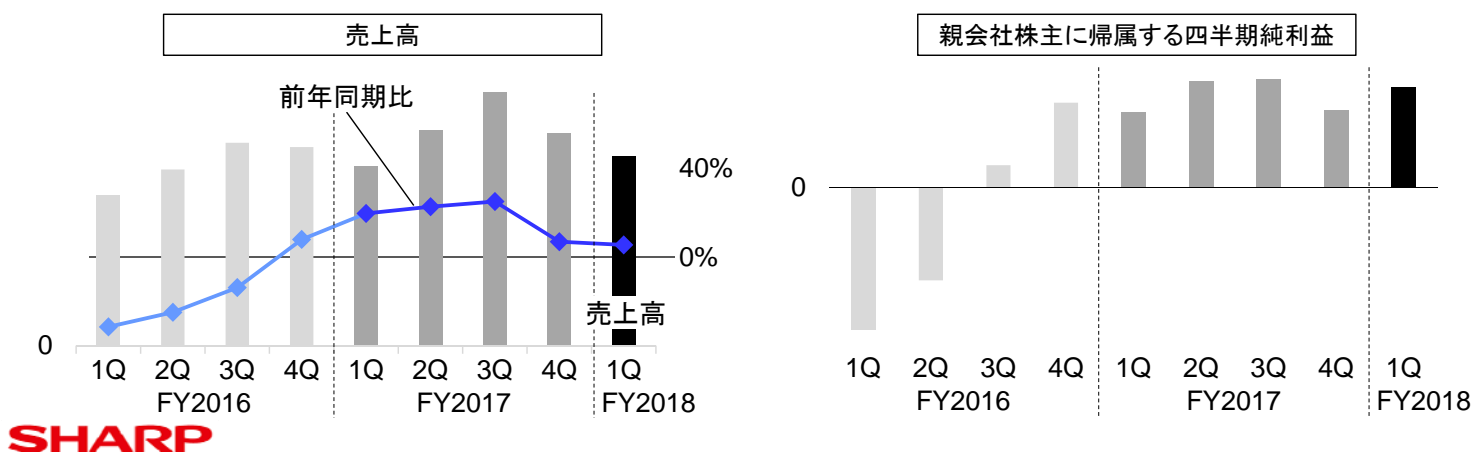
2

- まず、2018年度 第1四半期の連結業績概要です。
- 第1四半期の業績は、中期経営計画の達成に向け、引き続き順調に推移しております。
- 売上高は、2016年度 第4四半期以降、6四半期連続で前年同期を上回りました。
- 利益は、各利益とも大幅に伸長しました。  
特に営業利益は、前年同期比で1.5倍に迫る大幅な増益となっております。
- また、こうした好調な業績に伴い、自己資本比率は、2011年度末以来、6年3ヶ月ぶりに20%を上回りました。

# 2018年度 第1四半期 連結業績概要(2)

(単位:十億円)

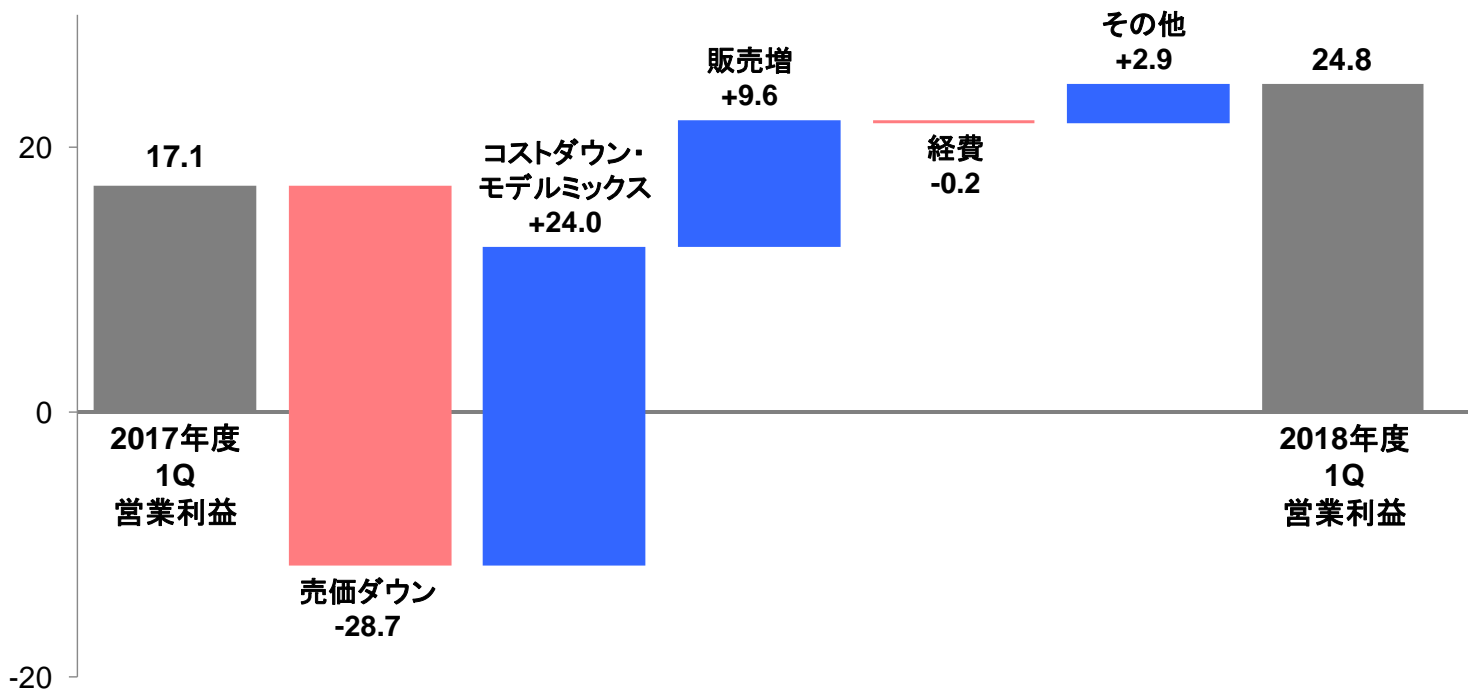
	2017年度	2018年度		2018年度	
	1Q	1Q	前同比	上期予想	通期予想
売上高	506.4	533.8	+5.4%	1,300.0	2,890.0
営業利益	17.1	24.8	+45.0%	46.0	110.0
経常利益	17.1	21.2	+23.9%	43.0	100.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	14.4	19.2	+32.6%	36.0	80.0
平均為替レート					
ドル円	110.10	108.07			102.00
ユーロ円	120.69	128.56			126.00



- ・ 次のスライドに、2018年度 第1四半期の業績数値をまとめております。
- ・ 売上高は、前年同期比5.4%増の5,338億円となりました。  
事業拡大への取り組みを本格化させた2016年度 第4四半期以降、前年同期比での増収が継続しております。
- ・ 利益については、  
販売が順調だったことに加え、継続的なコストダウンに取り組んでいることもあり、  
営業利益が、前年同期比45.0%増の248億円、  
経常利益が、前年同期比23.9%増の212億円、  
親会社株主に帰属する四半期純利益も、前年同期比32.6%増の192億円と、  
いずれも大幅に伸長しております。
- ・ なお、4月26日に公表しました2018年度の業績予想につきましては、  
変更ございません。

# 2018年度 第1四半期 営業利益増減分析(対前年同期)

(単位:十億円)



**SHARP**

4

- ・ 次のグラフは、営業利益の前年同期比での増減分析です。

ご覧のように、当第1四半期の営業利益は248億円となっており、前年同期から、77億円の大幅な増益となっております。

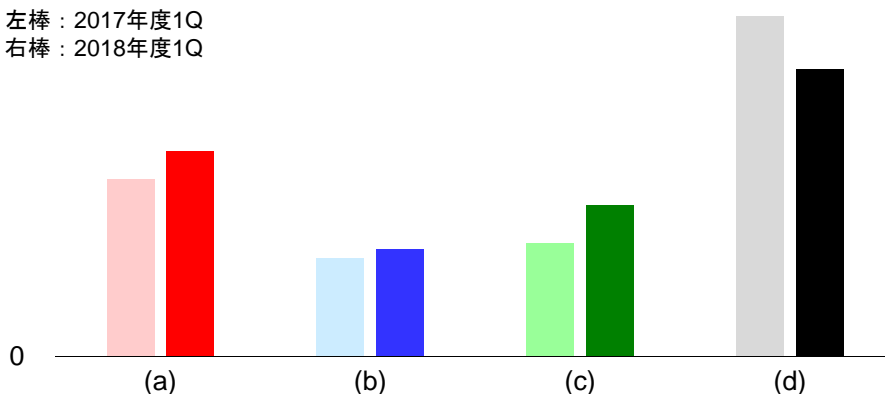
- ・ 「売価ダウン」による287億円の利益減はあったものの、240億円の「コストダウン」や「販売増」による96億円の利益の増加などがあり、前年同期の1.5倍に迫る収益を確保しております。

# セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2017年度	2018年度	
	1Q	1Q	前同比
(a) スマートホーム	130.2	150.5	+15.6%
(b) スマートビジネスソリューション	72.1	78.6	+8.9%
(c) IoTエレクトロデバイス	83.2	111.2	+33.6%
(d) アドバンスディスプレイシステム	249.6	211.1	-15.4%
小計	535.3	551.5	+3.0%
調整額	-28.8	-17.6	-
合計	506.4	533.8	+5.4%

左棒：2017年度1Q  
右棒：2018年度1Q



※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

SHARP

5

・次のスライドは、セグメント別売上高の一覧です。

・スマートホームは、前年同期比15.6%増の1,505億円となりました。

「AQUOS Rシリーズ」や「AQUOS sense」など 携帯電話が伸長しました。

このほか、コードレス掃除機「RACTIVE Air」をはじめ 掃除機が前年同期を大きく上回り、エアコンや洗濯機、冷蔵庫なども好調でした。

また、エネルギーソリューション事業では、海外EPC事業が堅調でした。

・スマートビジネスソリューションは、海外の複合機などが好調で、前年同期比8.9%増の786億円となりました。

・IoTエレクトロデバイスは、スマートフォン向けカメラモジュールやセンサモジュールのほか、半導体など独自デバイスが伸長し、前年同期比33.6%増の1,112億円となりました。

・アドバンスディスプレイシステムは、流通在庫を勘案し、中国で液晶テレビの販売を抑制したことなどから、前年同期比15.4%減の2,111億円となりました。

液晶テレビ事業では、欧州やアジアなどが伸長し、販売を抑制した中国向けを除いた売上は、増加しています。

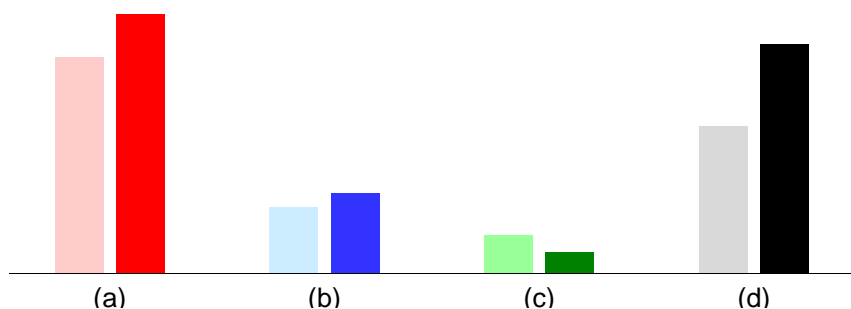
ディスプレイ事業は、中国向けスマートフォン用パネルの販売が減少し、大型パネルが価格下落の影響を受けた一方、大手顧客向けスマートフォン用パネル、PC・タブレットや車載向け中型パネルが好調で、売上は横ばいとなりました。

# セグメント別営業利益

※()内の数字は営業利益率です。(単位:十億円)

	2017年度		2018年度	
	1Q		1Q	前同比
(a) スマートホーム	9.9	(7.6%)	11.8	+19.9%
(b) スマートビジネスソリューション	3.0	(4.2%)	3.6	+20.7%
(c) IoTエレクトロデバイス	1.7	(2.1%)	0.9	-43.5%
(d) アドバンスディスプレイシステム	6.7	(2.7%)	10.5	+55.6%
小計	21.4	(4.0%)	27.0	+26.1%
調整額	-4.3		-2.2	-
合計	17.1	(3.4%)	24.8	+45.0%

左棒: 2017年度1Q  
右棒: 2018年度1Q



SHARP

6

- ・ 続いては、セグメント別営業利益の一覧になります。  
各セグメントとも黒字を継続しております。
- ・ スマートホームの営業利益は、前年同期比19.9%増の118億円となりました。携帯電話や白物家電の増収に伴う利益の増加があったことに加え、継続的なコストダウンに取り組んだこともあり、大幅な増益となりました。
- ・ スマートビジネスソリューションは、販売が伸長したほか、経費削減に取り組んだこともあり、前年同期比20.7%増の36億円となりました。
- ・ IoTエレクトロデバイスは、増収による利益の増加があるなか、コストダウンにも取り組みましたが、成長投資に伴う償却費の増加などがあり、前年同期比43.5%減の9億円の黒字にとどまりました。
- ・ アドバンスディスプレイシステムは、前年同期比55.6%増の105億円となりました。液晶テレビ事業では、中国での販売抑制に伴い、売上は減少しましたが、コストダウンやルートミックスの改善などにより、大幅な増益となりました。ディスプレイ事業も、コストダウン効果や、PC・タブレット用中型パネル、車載用パネルの売上比率増加に伴う収益性の改善により、大幅な増益となりました。

# 営業外損益・特別損益・法人税等の概要

(単位:十億円)

	2017年度	2018年度	
	1Q	1Q	前同 増減額
営業利益	17.1	24.8	+7.7
営業外損益	0.0	-3.5	-3.5
内:支払利息	-1.2	-1.1	+0.1
為替差損益	+2.3	-4.6	-6.9
持分法による投資損益	+0.5	-2.3	-2.8
経常利益	17.1	21.2	+4.1
特別損益	-0.7	+0.8	+1.5
内:段階取得に係る差損	-0.9	-	+0.9
税前利益	16.4	22.1	+5.7
法人税等 他	-1.9	-2.9	-1.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	14.4	19.2	+4.8

**SHARP**

7

- ・ 次のスライドは、主な「営業外損益」・「特別損益」・「法人税等」の概要です。
- ・ 2018年度 第1四半期には、「営業外損益」として、「為替差損」や「持分法による投資損失」などが発生しております。
- ・ また、利益の拡大に伴い、前年同期に比べ、法人税等が増加しています。



# 連結貸借対照表推移

- ・現預金は、配当金・設備関連費用の支払などにより、3月末の4,223億円から3,052億円に
- ・純資産は、3月末比19億円増の4,036億円に
- ・自己資本比率も、20.9%に改善、6年3ヶ月ぶりに20%を上回る

(単位:十億円)

	2017年度		2018年度 6月末	現預金の主な増減要因 (2017年度末比)			2017年度		2018年度 6月末
	12月末	3月末		配当金の支払	設備関連費用等の支払	2Q以降の販売に係る在庫増等	12月末	3月末	
現預金	397.6	422.3	305.2	-21.0	-49.6	-32.3	510.4	429.4	385.3
受取手形・売掛金	578.8	471.5	442.1				79.2	81.2	83.2
たな卸資産	214.4	219.7	252.0				0.0	10.0	10.0
その他	116.4	103.6	120.8				333.8	312.7	272.2
<b>流動資産計</b>	<b>1,307.5</b>	<b>1,217.1</b>	<b>1,120.3</b>				<b>923.5</b>	<b>833.4</b>	<b>750.8</b>
有形固定資産	419.0	428.5	422.7				40.0	30.0	30.0
無形固定資産	43.5	44.7	45.8				505.2	507.0	506.7
投資その他資産	227.5	217.8	244.8				139.4	136.2	142.4
<b>固定資産計</b>	<b>690.1</b>	<b>691.2</b>	<b>713.3</b>				<b>684.6</b>	<b>673.2</b>	<b>679.2</b>
繰延資産	0.0	0.0	0.0						
<b>資産合計</b>	<b>1,997.7</b>	<b>1,908.4</b>	<b>1,833.7</b>				<b>1,997.7</b>	<b>1,908.4</b>	<b>1,833.7</b>
期末日レート									
ドル円	112.05	105.27	109.54						
ユーロ円	133.45	129.08	126.38						
				支払手形・買掛金			510.4	429.4	385.3
				短期借入金			79.2	81.2	83.2
				1年内社債			0.0	10.0	10.0
				その他			333.8	312.7	272.2
				<b>流動負債計</b>			<b>923.5</b>	<b>833.4</b>	<b>750.8</b>
				社債			40.0	30.0	30.0
				長期借入金			505.2	507.0	506.7
				その他			139.4	136.2	142.4
				<b>固定負債計</b>			<b>684.6</b>	<b>673.2</b>	<b>679.2</b>
				純資産			<b>389.5</b>	<b>401.7</b>	<b>403.6</b>
				<b>負債純資産合計</b>			<b>1,997.7</b>	<b>1,908.4</b>	<b>1,833.7</b>
				自己資本比率			18.7%	19.8%	20.9%

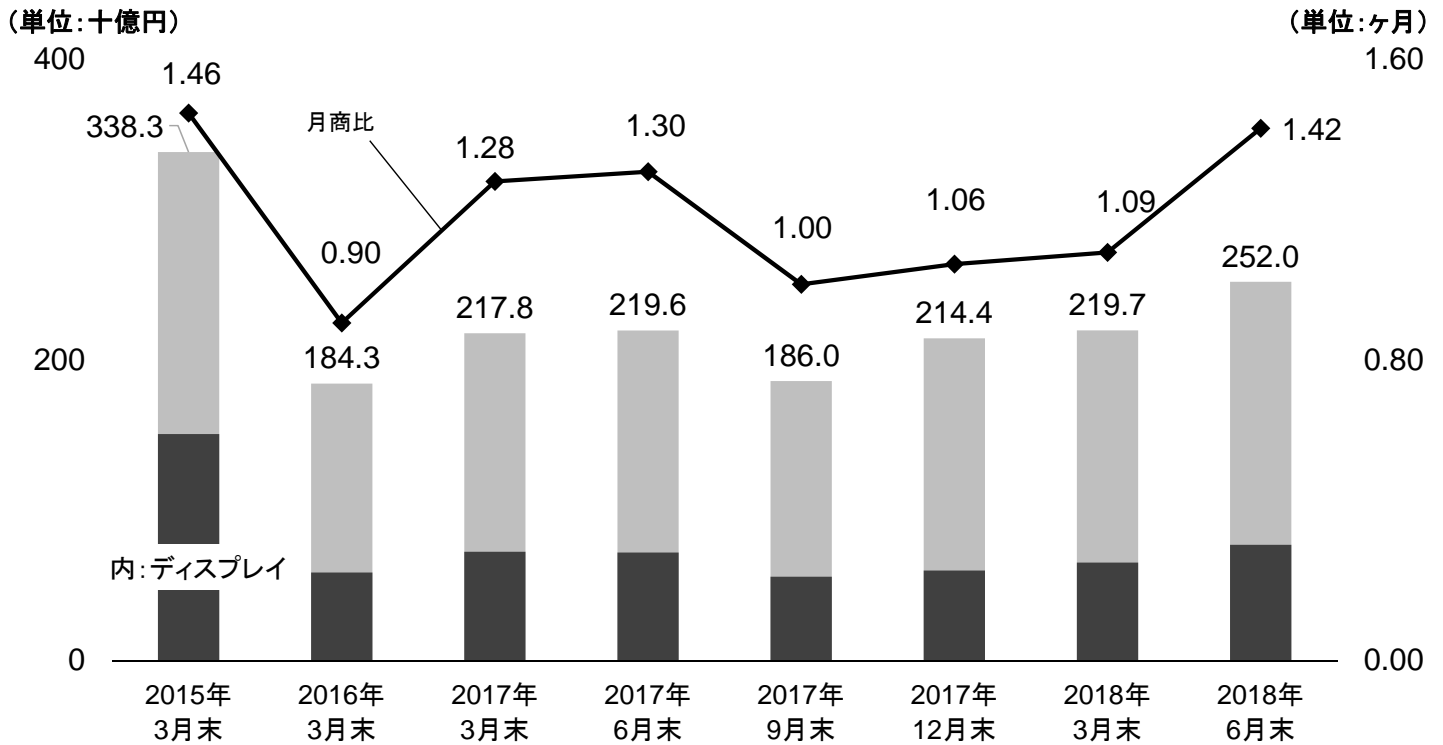
SHARP

8

- ・ 次のスライドは、貸借対照表の推移です。
- ・ 2018年度 第1四半期末の「現預金」は、収益が引き続き堅調に推移した一方、6年ぶりに実施した配当金の支払いを行ったこと、設備関連費用等の支払いが発生したこと、第2四半期以降の販売に係る在庫を確保したことなどから、2017年度末の4,223億円に対し、3,052億円となっています。
- ・ 2018年度 第1四半期末の「純資産」は、配当金の支払いなどがあったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益が黒字であったこともあり、2017年度末の4,017億円から、4,036億円へと増加しております。
- ・ 「自己資本比率」についても、2017年度末の19.8%から20.9%に増加しました。着実な利益の積み上げにより、6年3ヶ月ぶりに20%を上回っています。

# たな卸資産の推移

- ・たな卸資産は、関係会社の連結子会社化や新商品発売に向けた在庫の確保などもあり2018年3月末の2,197億円に対し2,520億円に増加
- ・今後の販売計画等を勘案し、引き続き**適正な在庫水準**を維持



SHARP

9

- ・ 次のスライドは、「たな卸資産」の推移です。
- ・ 2018年度 第1四半期末の「たな卸資産」は、2017年度末の2,197億円から、2,520億円に、月商比では1.09ヶ月から、1.42ヶ月に増加しております。

垂直統合型ビジネスの強化に向け、一部の関係会社を連結子会社化したこと、第2四半期以降の新商品販売に備え、商材を確保したことなどによるものです。

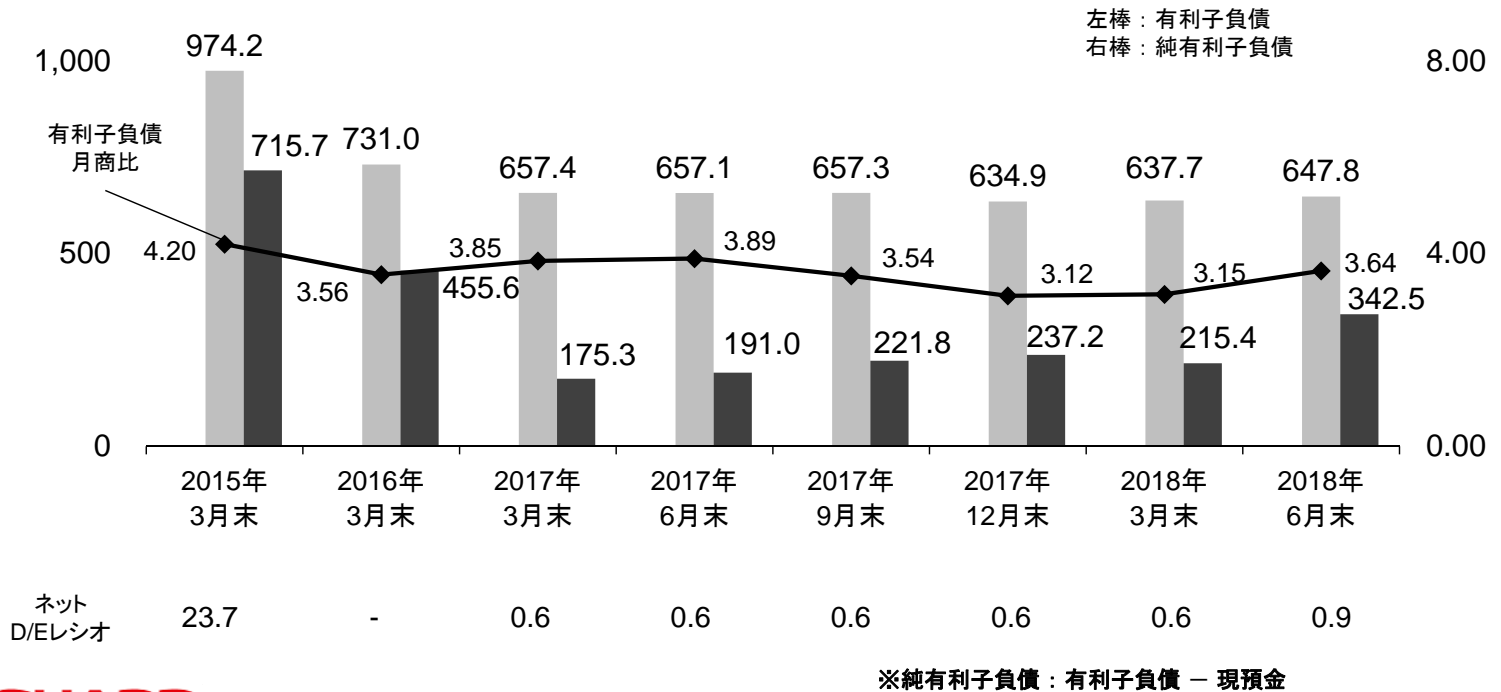
- ・ 今後も、需要動向や販売リスクなどを適時把握し、引き続き適正な在庫水準を維持してまいります。

# 有利子負債の推移

- ・2018年6月末の有利子負債は、2018年3月末の6,377億円から6,478億円に  
月商比では3.15ヶ月から3.64ヶ月に
- ・純有利子負債※は、2,154億円から3,425億円に

(単位:十億円)

(単位:ヶ月)



SHARP

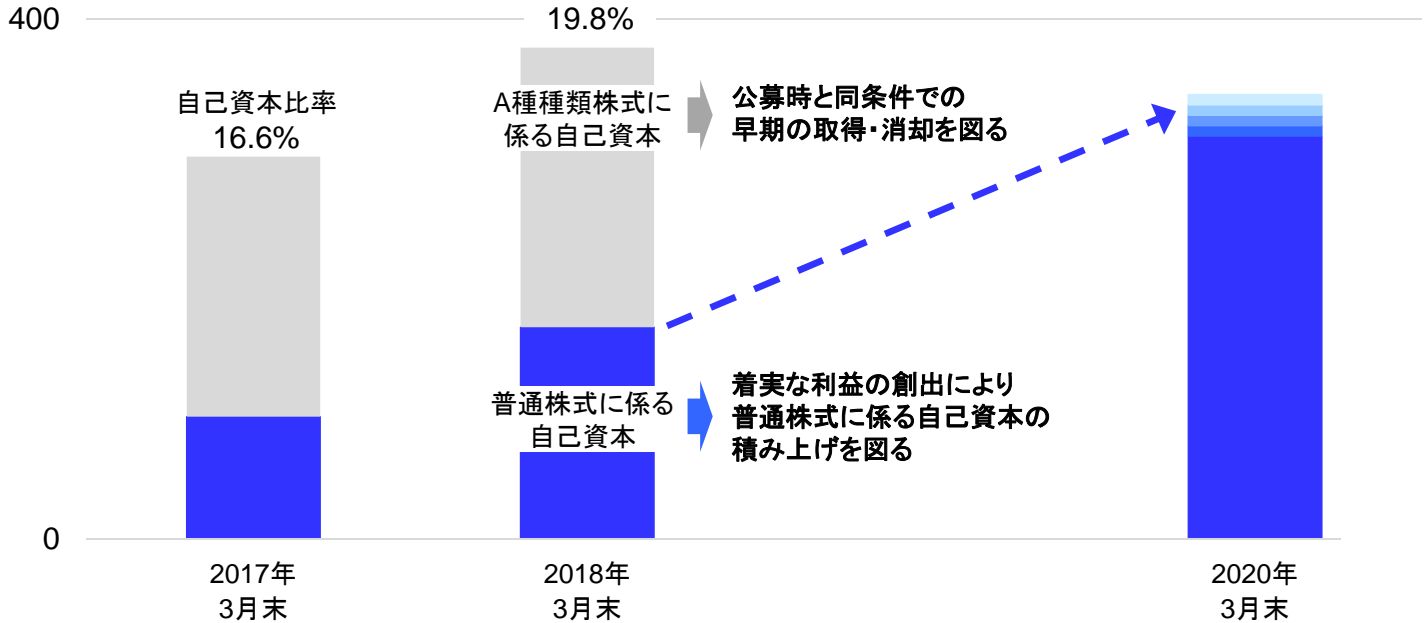
10

- ・ 次のスライドは、有利子負債の推移です。
- ・ 2018年度 第1四半期末の有利子負債は、2017年度末の6,377億円から、6,478億円に増加しました。  
純有利子負債は、  
配当金の支払いなど一時的な要因があり、現預金が減少したこともあり、2017年度末の2,154億円に対し、3,425億円となっています。
- ・ 引き続き在庫の適正化や、効率的な設備投資の実施に努め、キャッシュ・フローの改善を図ります。

# 資本・資金について

- ・中期経営計画は順調に進捗し、自己資本は着実に増加
- ・不確実性や優先配当を有するA種種類株式は、手元資金を活用し、早期に取得・消却、資本の質的向上を図る
- ・利益が拡大する中、売掛金回収・在庫管理を徹底し、資本・資金効率の向上に取り組むとともに、中期経営計画の達成・事業拡大に必要な投資を積極的に行う

(単位:十億円)



※普通株式には、普通株式と同等株式であるC種種類株式を含む

SHARP

11

- ・次に、資金・資本について、ご説明いたします。  
ご覧のとおり、利益の積み上げが進んでいることから、自己資本は着実に増加しています。
- ・こうした状況において、資本の質的向上という観点から、不確実性や優先配当を有するA種種類株式を、速やかに取得・消却する意義は大きいと考えております。
- ・当初は公募増資による取得を想定していましたが、株式市場の不安定度が増したため、ステークホルダーの利益の最大化に資するものにならないと判断し、中止いたしました。  
一方、当社の現預金には余裕があり、各利益とも前年同期を大きく上回るなど、中期経営計画の達成に向け、業績も順調に進捗しています。  
こうしたことから、手元資金を活用し、公募時と同条件で、早期にA種種類株式を取得すべく、みずほ銀行・三菱UFJ銀行と協議を進めています。
- ・また、事業・利益が拡大する中、売掛金の回収・在庫の管理を再徹底し、資本・資金の効率を向上させながら、中期経営計画の達成に向けた積極的な投資を行っていきます。

# 8KとAIoTで世界を変える 「人に寄り添うIoT」

スマートホーム事業における取り組み

9カテゴリー 104機種



SHARP

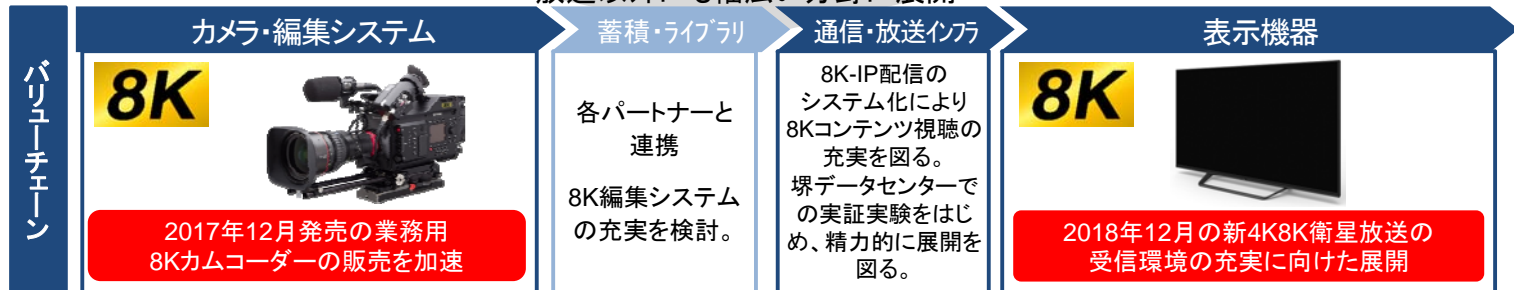
12

- 次は、当社の事業ビジョンである「8KとAIoTで世界を変える」の実現に向けた取り組みです。  
まず、「人に寄り添うIoT」です。
- ご覧のように、幅広くAIoT機器のラインアップを拡充するとともに、「COCORO MUSIC」「COCORO GAME」「COCORO PET」「ヘルシオデリ」など、これら機器に向けたAIoTサービスを順次立ち上げております。  
そして、これらを通じて構築したAIoTプラットフォームを他社に提供し、新たなビジネスの創出にも取り組んでおります。  
加えて、AIoT化によるアフターサービスの効率化も進めてまいります。
- また、スマートビジネスソリューションでも、スマートオフィスやスマートサイネージ、スマートリテール、スマートファクトリーなど、AIoTを活用したビジネスの変革を進めています。

# 8KとAIoTで世界を変える「8Kエコシステム」



放送以外にも幅広い分野に展開



**SHARP**

13

- ・ 続いて、「8Kエコシステム」です。
- ・ 当社は、まずは、放送分野においては、すでに販売を始めているAQUOS 8Kや業務用8Kカムコーダを含め、8Kの応用製品を拡充し幅広いラインアップで展開してまいります。海外においても、展開地域を拡大していく予定です。
- ・ これらの8K製品や8K関連技術を核に、5GやAIの技術を組み合わせることで、放送分野のみならず、医療、セキュリティ、工業、教育、美術、インフラ保全、エンターテインメント、観光など、幅広い分野での事業展開が期待できます。

各応用分野において、各パートナーと連携して、8K技術を活用したソリューションの展開を進め、8Kエコシステムの取り組みを加速してまいります。

## Ⅱ.補足資料

- ・ 補足資料として、「セグメント別売上高・営業利益」等の実績をまとめておりますので、ご確認下さい。

- ・ 第1四半期の業績も、中期経営計画の達成に向け、引き続き順調に推移しております。

今後も、これまでの流れを止めることなく事業拡大を進めるとともに、収益力の強化と財務体質の改善を図り、株主をはじめ、ステークホルダーの利益の最大化に取り組んでまいります。

- ・ ご清聴ありがとうございました。

# 連結業績概要

(単位:十億円)

	2017年度			2018年度		
	上期	下期	通期	上期予想	下期予想	通期予想
売上高	1,115.1	1,312.1	2,427.2	1,300.0	1,590.0	2,890.0
営業利益	40.5	49.5	90.1	46.0	64.0	110.0
(利益率)	(3.6%)	(3.8%)	(3.7%)	(3.5%)	(4.0%)	(3.8%)
経常利益	41.1	48.1	89.3	43.0	57.0	100.0
(利益率)	(3.7%)	(3.7%)	(3.7%)	(3.3%)	(3.6%)	(3.5%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	34.7	35.4	70.2	36.0	44.0	80.0
(利益率)	(3.1%)	(2.7%)	(2.9%)	(2.8%)	(2.8%)	(2.8%)

SHARP

15

# 四半期 連結業績概要

(単位:十億円)

	2017年度				2018年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	506.4	608.7	714.2	597.8	533.8
営業利益	17.1	23.4	29.7	19.7	24.8
(利益率)	(3.4%)	(3.9%)	(4.2%)	(3.3%)	(4.6%)
経常利益	17.1	23.9	29.9	18.2	21.2
(利益率)	(3.4%)	(3.9%)	(4.2%)	(3.0%)	(4.0%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	14.4	20.2	20.6	14.8	19.2
(利益率)	(2.9%)	(3.3%)	(2.9%)	(2.5%)	(3.6%)

SHARP

16



# セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2017年度		
	上期	下期	通期
スマートホーム	290.6	317.3	607.9
スマートビジネスソリューション	162.7	168.4	331.1
IoTエレクトロデバイス	192.2	299.2	491.5
アドバンスディスプレイシステム	521.6	564.9	1,086.5
小計	1,167.2	1,349.9	2,517.2
調整額	-52.0	-37.8	-89.9
合計	1,115.1	1,312.1	2,427.2

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

# セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2017年度		
	上期	下期	通期
スマートホーム	20.4 (7.0%)	23.2 (7.3%)	43.7 (7.2%)
スマートビジネスソリューション	8.9 (5.5%)	11.2 (6.7%)	20.1 (6.1%)
IoTエレクトロデバイス	3.6 (1.9%)	1.5 (0.5%)	5.1 (1.0%)
アドバンスディスプレイシステム	16.3 (3.1%)	20.6 (3.7%)	37.0 (3.4%)
小計	49.3 (4.2%)	56.7 (4.2%)	106.0 (4.2%)
調整額	-8.7	-7.1	-15.9
合計	40.5 (3.6%)	49.5 (3.8%)	90.1 (3.7%)

※()内の数字は営業利益率です。

## 四半期 セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2017年度				2018年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
スマートホーム	130.2	160.4	148.9	168.3	150.5
スマートビジネスソリューション	72.1	90.5	80.1	88.2	78.6
IoTエレクトロデバイス	83.2	109.0	189.3	109.8	111.2
アドバンスディスプレイシステム	249.6	271.9	314.6	250.2	211.1
小計	535.3	631.9	733.2	616.7	551.5
調整額	-28.8	-23.1	-18.9	-18.9	-17.6
合計	506.4	608.7	714.2	597.8	533.8

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

## 四半期 セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2017年度				2018年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
スマートホーム	9.9 (7.6%)	10.5 (6.6%)	10.6 (7.2%)	12.5 (7.5%)	11.8 (7.9%)
スマートビジネスソリューション	3.0 (4.2%)	5.8 (6.5%)	3.6 (4.5%)	7.6 (8.6%)	3.6 (4.7%)
IoTエレクトロデバイス	1.7 (2.1%)	1.8 (1.7%)	5.1 (2.7%)	-3.5 (-3.2%)	0.9 (0.9%)
アドバンスディスプレイシステム	6.7 (2.7%)	9.6 (3.5%)	13.1 (4.2%)	7.4 (3.0%)	10.5 (5.0%)
小計	21.4 (4.0%)	27.8 (4.4%)	32.6 (4.4%)	24.0 (3.9%)	27.0 (4.9%)
調整額	-4.3	-4.4	-2.8	-4.3	-2.2
合計	17.1 (3.4%)	23.4 (3.9%)	29.7 (4.2%)	19.7 (3.3%)	24.8 (4.6%)

※()内の数字は営業利益率です。

# 設備投資・減価償却費等

	2017年度			2018年度
	上期	下期	通期	通期予想
	(単位:十億円)			
設備投資	73.2	46.1	119.3	120.0
内:ディスプレイ	16.7	18.7	35.5	40.0
減価償却費	28.8	39.6	68.4	88.0
研究開発費	50.2	50.2	100.5	110.0
(単位:円)				
平均為替レート	2017年度			2018年度
	上期	下期	通期	通期予想
米ドル	110.07	109.64	109.86	102.00
ユーロ	124.79	131.62	128.20	126.00

# 四半期 設備投資・減価償却費等

	2017年度				2018年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
	(単位:十億円)				
設備投資	18.8	54.4	33.7	12.3	11.3
内:ディスプレイ	3.2	13.5	11.0	7.7	4.4
減価償却費	14.1	14.6	19.4	20.1	17.1
研究開発費	28.7	21.5	30.8	19.3	30.4
(単位:円)					
平均為替レート	2017年度				2018年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
米ドル	110.10	110.04	111.98	107.30	108.07
ユーロ	120.69	128.88	131.51	131.73	128.56

# SHARP

Be Original.

